

「篠川小・中学校の島口・三味線伝承活動の取組」

1 学校名

瀬戸内町立篠川小・中学校

2 学年・人数

小学校1年生から6年生（10人）、中学校1年生から3年生（3人）計13人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

毎月1回 創意・総合的な学習の時間（本校図書室）

令和3年10月9日（土）高齢者表敬交流会リハーサル

令和3年10月25日（月）学習発表会リハーサル

(2) 発表の日時・場所

令和3年10月9日（土）高齢者表敬交流会

令和3年10月31日（日）学習発表会

令和3年11月13日（土）瀬戸内町子ども島口・伝統芸能大会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について

(1) 名称

島口・三味線（しまぐち・しゃみせん）

(2) 由来

昭和50年頃まで、集落で三味線・島唄のできる人はごく限られていた。当時、中央公民館で三味線・島唄教室が開かれており、集落からの受講者もいた。昭和53年、篠川小中学校は創立100周年を迎えた。その記念式典において、受講者たちが三味線・島唄の3曲を発表した。そのときの発表がきっかけとなり、創立100周年記念事業資金の一部で三味線を10竿購入し、昭和55年から児童生徒への指導が行われるようになった。

(3) 構成等

三味線，チジン

5 保存会や地域との連携の具体

当初、学校の職員が指導を行っていたが、次第に受講者たちも指導に協力するようになった。平成3年、瀬戸内町の社会教育大会が古仁屋小学校体育館で行われた際に、そのオープニングの三味線合奏を篠川小・中学校の児童生徒が行った。さらに、平成14年頃からは中学校の音楽教師を中心に、地域の指導者及び子ども会にも協力して、本格的に島唄・三味線教室の指導が行われるようになり、現在に至っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

毎月1回、集落の指導者を3名招き、三味線・島唄の練習を行っている。また、地区センターにおいて、子ども会の保護者らによる指導も行われており、町の子どもの島口・伝統芸能大会への参加も積極的に行っている。

7 取組の様子



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【中学1年】

小学1年生の時から練習してきて、唄える曲や弾ける曲がどんどん増えていって嬉しかった。また、地域の方々と交流できるいい機会になった。島口・伝統芸能大会などで他の小中学生の島唄・三味線を聴いて、昔からずっと引き継がれている素晴らしいものなんだと改めて感じた。これからも、地域の方々に教えてもらいながらたくさん練習をしていきたい。

【保護者から】

児童生徒数も少なくなり、現在島外出身の子どもたちにも保護者の方に理解していただき参加してもらっている。保護者だけでは教えることができないため、地域の指導者の方には本当に感謝をしている。今までは、豊年祭や年の祝い等発表する場があったが、コロナ禍で発表をする場面も少なくなりなかなか練習を行うことができなかった。その中で今年初めて参加した小学1年生も島唄が分からない中で一生懸命頑張ってくれた。これからも、この伝統を守っていけるように手伝いができたらと思う。

【教職員】

毎月1回総合的な学習の時間などで、島唄・三味線教室を行っている。今年は、発表をする場が何度かあった。練習も最初の方は、三味線が途切れたり唄うときの声が小さかったりしたが、練習を重ねるにつれ、三味線を弾く姿も唄う姿も堂々としてきた。また、高齢者表敬交流会などでは、発表をしたあとにたくさんの拍手もいただいた。子どもたちには、この経験をもとに、伝統を受け継ぐ担い手としてどんどん成長をしてほしいと思う。